

事業所名

放課後等デイサービス あんず江戸川

支援プログラム

作成日

2024 年

8 月

1 日

法人（事業所）理念	杏は、熟することで旨味が生じ、独特の香りが特徴で、その存在も個性的。漢字では、口の上に木が生えており、自ら発する言葉で成長する。個性豊かな子ども達を杏に例え、その成長をサポートしながら、共に学び、実を実のらせる。		
支援方針	個々の特性を理解し、スローステップで各取り組みを促す。やる気の出る声かけを常とし、本人のやりたいを引き出す。既存の教材に捕らわれることなく、本人の希望や嗜好を活かし、共に取り組みながら様々な概念の取得とコミュニケーションへ繋げる。		
営業時間	10時～17時	送迎実施の有無	あり
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	入室時から日常動作の促しをスタート（靴を揃えてしまい名札をつける→鞆を指定の棚にしまい名札をつける→連絡帳提出→トイレ・手洗い・健康チェック）入園・入学・進級に向け、自分のことは自分で出来るよう手出しを最低限とする。やってあげるのではなく、見本を見せて模倣させる。トイレ介助が必要な児童は、指導員と一緒に入り、指導を行う（原則、男児は男性指導員、女児は女性指導員が担当）昼食時は、よく噛むことを促し、食べた量を確認。避難訓練を兼ねた散歩時や外遊びのカリキュラム時は、交通ルールの指導。箸を使えない児童は、遊びの中では箸に触れさせる。生活に必要な概念、名前、ルール、場所等を、カードを使い、視覚と聴覚で一致させる。	
	運動・感覚	サーキットトレーニング（ラダー・マット・トランポリン・ハードル・平均台）、ラジオ体操（未就学児童はキッズ体操）が主な運動療育。体幹とバランス感覚を鍛える取り組みとして、ピリボ、バランスボールを自由遊びの中で行う。フロアの広さを活かし、ドッジボール、キャッチボール、ゴム跳び、ジャンプ大会、風船バレー、鬼ごっこ、フルーツバスケット、椅子取りゲーム、だるまさん転んだ等々、支援時間に合わせ様々な運動を予定している。当ビル1階の空きスペースにて、縄跳びを行える。縄跳びが宿題となっている児童に好評。	
	認知・行動	様々な概念を、カードを用いてインプットし、アウトプットとしてプリント学習を活用する。空間、時間、数等の概念を遊びに取り入れ、やらされているという意識を持たせず、自然に把握できる環境を提供。外部環境に対応できるよう、SSTカードや質問BOXを使い、こんな時どうする？どう思う？の表現を小集団で行う。音楽やタイマーを利用して、切り替えを行う。クリアしたい問題に沿った本を選択し、読み聞かせを行う。	
	言語コミュニケーション	言葉に関するカードを約5000枚保有。イラストと文字を一致させ発声を促す左脳への働きかけと、フラッシュでめくる右脳への働きかけ両方を行い、全脳を刺激し、より多くの言葉の獲得に繋げる。発声の強制はしないが、言葉が出そうな時期を見計らい、口の動きの模倣を促す。言葉の遅れている児童にはイラストも活用するが、遊びたい玩具等を活用して、要求を言葉にすることを促しながら、単語から会話へと発展させる。始まりの会は全員で北原白秋の五十音の発声（未就学児童は1年生国語のあいうえお）、帰りの会ではクールダウンも兼ねて、読み聞かせと学習系カードを行う。	
	人間関係社会性	生きづらさ・ストレスを抱えてないか常に児童の様子を把握し、得意とすることや、その児童が今ハマっていることを取り入れて指導員と一緒に楽しみながら、切り替えを図る。状況に応じて、幼稚園・保育園・学校の様子を見学し、障害特性以外から影響を受けていることはないか探る。場面に応じた概念の理解を、カードや読み聞かせでインプットし、アウトプットを待つ。ごっこ遊びの設定を通して、社会性を学ぶ。挨拶当番、テーブル拭き当番、お茶入れ当番、おやつ当番など、役割りをあたえ、終了後は指導員から必ず「ありがとう」を伝える。家庭の状況からアタッチメント不足はないか職員間で情報共有し、叱った方が良かったか、待った方が良かったか、観察を常とする。	
家族支援	利用児童だけでなく、兄弟間や家族関係、保護者の悩み等も聞き取り、当施設として協力できる内容を提供する。精神面で医療の支援が必要と思われる家庭に対しては、同グループの訪問看護へ繋げ、連携を密にする。保育園児は、園への送迎が可能か調整する。	移行支援	幼保に入園していない児童の就学シートの作成を行う。入園を断られた児童の活動を支援し、成長に伴い、園と通所で調整を行えないか相談を行う。近隣小中学生は、車の送迎から自力で通所することへの移行を行う。
地域支援・地域連携	保育園、幼稚園、各学校と近況を共有し、児童に変化が見られた時には支援員へ報告し、担当者会議の提案を行う。学校公開等、普段の児童を観察できる場へ参加し、環境を把握する。	職員の質の向上	ケアカンファレンスを密にし、各児童について気になる点を共有する。毎月研修を行い、発達障害への理解を深める。支援のアイデアを忌憚なく発言できる雰囲気づくりを行う。
主な行事等	節分（巧緻性トレーニングを兼ねて、新聞を契って丸めて大量の豆の代替えを全員で大量に作り、豆まきを行う） 大きな壁を利用して、季節のちぎり絵等を全員で完成させる。土曜と長期休みは、本人の希望とグループ分けによる外遊びを実施。 避難訓練年2回の予定。		